

○ 終末期がん患者に対する鎮静の現状と課題

高知大学医学部附属病院がん治療センターでは、現在、2015年1月1日～12月31日の間に亡くなった患者さんを対象とし、どのような鎮静が実施されたかを調査しております。内容については下記のとおりとなっております。

[研究の目的]

終末期がん患者さんに対して、痛みや息苦しさ等の苦痛を和らげることを目的とした鎮静が行われることがあります。

現在、日本緩和医療学会の「苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン」等に沿って鎮静を行うことが推奨されていますが、患者さんがより質の高いケアを受けられるよう、当院の現状に即したガイドラインの作成を検討しております。今回、現状把握のための調査を行い、その結果に基づいて当院専用のガイドラインを作成したいと考えます。

[研究期間]

2017年1月（倫理委員会承認日）～2017年12月31日

[取り扱うデータ]

2015年に当院にて亡くなられたがん患者さんのうち、鎮静が実施された患者さんを対象として、カルテから以下のデータを収集させていただきます。

基礎情報（年齢、性別、診療科、癌腫）、使用薬剤（鎮静に使用した薬剤、オピオイド）とその期間及び投与量、鎮静様式、鎮静水準、鎮静導入理由、鎮静に際してのカンファレンスの実施状況、医師間の相談の有無、意志決定の対象、緩和ケアチーム介入の有無

[個人情報保護の方法]

今回の研究では、上記の必要な医療情報以外の個人情報を記録いたしません。また、電子カルテから抽出した情報は、インターネットに接続していない外部記憶装置に記録し、鍵のかかる保管庫に保管します。また、本研究終了後、全ての情報は適切に破棄します。

[研究結果の公表について]

本研究の結果が、学術目的で論文や学会で公表されることがあります。その際も、患者さんの個人情報は厳重に保護されます。第三者に患者さんの個人情報が明らかとなることはありません。

[研究実施責任者]

がん治療センター副センター長 北岡 智子

[問い合わせ先]

該当する患者さんのご家族、ご関係者の方、本研究に関するご質問等ございましたら、以下までご連絡ください。

高知大学医学部附属病院薬剤部 橋田 和佳

電話番号 088-866-5811